



## 菊野 里絵 さん

Kikuno Rie (宮内)

### 株式会社リファー (白石)

菊野さんは東京都出身。東京電力の社員として都内で働いていましたが、消費をするだけの都会暮らしに疑問を持つようになっていきました。福島市の祖母の果樹園でおいしい桃をほおばった幼い記憶に突き動かされ、会社勤めを辞め、伊達市で桃農家になりました。ようやく桃が軌道に乗って、5年目に震災。住んでいた場所がホットスポットに指定され、また元東電社員という立場にも苦しみ、離農しました。

もう農業はできないと考えていた菊野さんですが、学習塾の経営などを経て地域活性化に取り組み企業に入り、農業再生プロジェクトのもも飯館村に設立された株式会社リファーで、再び農業に携わることになりました。「飯館村の野菜はおいしいね」と言ってもらえるよう私も頑張りたい。規模を広げ、仲間も増やしていければ、今後は農産物の六次化にも挑戦したいです。村の学園に通う息子の八尋君も、マルシェの出店などを積極的に手伝います。「私なりに使命感を持って、農業に向き合っていきたいと思っています」。

3年目を迎えた菅田地区の農場。ここでさまざまな種類の野菜や花を育てています。事務所は旧白石小学校内に置いています。



## おいしい飯館の野菜をつくりたい

育てた苗木を定植する関沢地区の用地にて。



## 山田 猛史 さん

Yamada Takeshi (関根・松塚)

## 平野 小みち さん

Hirano Komichi (深谷)

## 薬用植物×飯館村の未来を夢見て



大学や村民の協力で集めたコブシの種子。1粒ずつ丁寧に土に入れました。

鍼灸師として女性専用の鍼灸ルーム「はりきゅうカシエット」を営む平野さんは、漢方薬の材料となる薬用植物の栽培を目指して活動しています。実際に栽培を手がけている大学や近隣の漢方薬局などとネットワークを築き、村内で栽培する薬用植物の選定を行ってきました。

くりのスタートです。平野さんは、栽培の師として、山田猛史さんの協力を仰ぐことにしました。平野さんは、獣医師の父康幸さんと共に、小学生の時に家族で飯館村に移り住みました。平野家と山田家は以前から親交があり、平野家にとつて、山田家は「わらじぬぎの家」の家だっただけです。その後、も家族ぐるみの交流が続く中で平野さんは成長しました。平野さんが山田さんと一緒にコブシを育てる今回の挑戦は、振り返れば長い物語の続きになる。

4月下旬、山田さんの自宅裏でコブシの種子をトレー内の土に植えつけた。苗木が育ったら関沢地区の畑地に定植する予定です。用地は山田さんが手配しました。苗木が育つのを待ちながら、畑地に肥料をまくなどして定植の準備を進めます。平野さんは、薬用植物の栽培で村内の遊休農地を生かし、さらには村になりわいをつくり出すことも思い描いています。コブシ栽培のその先にも、物語は続きます。

※わらじぬぎの家はその土地に来て初めて世話になった家のこと。



## 渡部 沙織 さん

Watanabe Saori (新地町)

SHIRUBE シルベ (伊丹沢)

## 耕作放棄地から生まれたアロマブランド

「SHIRUBE」は、飯館村を拠点に、ホーリーバジルを活用した商品の開発を行うアロマブランドです。デザイン会社の社員で飯館営業所の所長を務める渡部さんが、新規事業として立ち上げました。耕作放棄地を「残留農薬のない無垢な農地」と捉え、無農薬・無化学肥料栽培でホーリーバジルを育て、商品開発を行っています。

交流人口の増加にも貢献したいと考えています。昨年は、芳香や成分に癒しの効果を持つホーリーバジルの貴重な精油を使ったルームミストや、ほんのり甘く爽やかに香るホーリーバジルティーなどを商品化。またブランドの成長をイン스타그램で発信したり、魅力を伝えるワークショップを展開したりして関心層とつながり、種まきなど畑のイベントも企画しています。村内の人とつながりながら、3年目となるホーリーバジルの栽培が、村の農地で始まっています。



Instagram

